

志津見ダム水源地域ビジョン策定における 取り組みについて

篠原 仙充¹・青木 幸成²・玉田 一雄³

^{1,2}中国地方整備局 出雲河川事務所 志津見ダム管理支所（〒690-3314 島根県飯石郡飯南町角井1891-20）

³中国地方整備局 出雲河川事務所（〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町5-1）

水源地域ビジョンは、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のために水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定する行動計画である。志津見ダムでは、平成23年6月の建設完了に伴い、平成24年3月に「志津見ダム水源地域ビジョン（以下「ビジョン」という）」を策定した。本報告はその策定における課題と対応等の取り組みについて報告するものである。

キーワード ダム周辺地域、地域づくり、水源地域ビジョン

1. 水源地域ビジョンとは

(1) 水源地域ビジョンの目的

水源地域ビジョンは「水源地域の総合的な整備のあり方に関する提言（平成11年9月）」の基本理念（①計画・建設段階での水源地対策から管理段階も含めた水源地域の総合的な整備への転換、②流域共同体意識の醸成、③行政間の広範な連携）を踏まえ、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のために、水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定する水源地域活性化のための行動計画である。平成13年4月に水源地域ビジョン策定要領が定められ、全国の国土交通省及び水資源機構が管理するダムで策定されている。

(2) 水源地域ビジョンの策定及び推進の方法

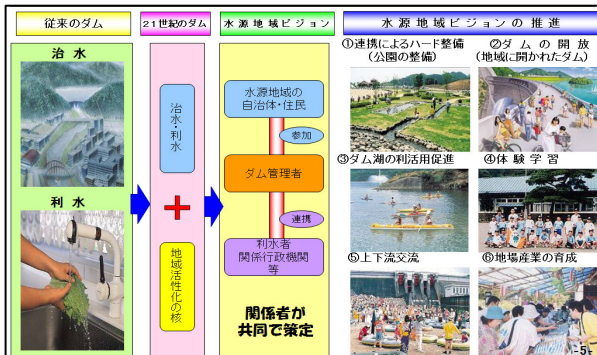


図-1 水源地域ビジョンのイメージ

水源地域ビジョン策定要領においては、ダム周辺や地域資源を活かした活性化の方策、関係機関が行う支援方

策を定めることや地域資源を有効に活かすソフト対策に重点を置いた方策及び流域の住民が協力しやすいような内容であることが求められている。策定においては流域の自治体、住民、ダム事業者・管理者、関係行政機関、有識者等からなる策定組織を設置し、水源地域の関係者の意向を反映し策定することとなっている。また、策定後には施策の実施と関係者の連携・協力を円滑にするための推進組織づくり、フォローアップなどを行うこととなっている。

2. ビジョン策定にあたっての基本条件の整理

(1) 志津見ダムの概要

志津見ダムは、斐伊川水系神戸川の島根県飯南町角井に建設された重力式コンクリートダムである。有効貯水量 46,600,000m³ で洪水調節、流水の正常な機能の維持、発電、工業用水を目的とした多目的ダムである。昭和61年にダム建設事業に着手し、平成23年5月の試験湛水完了後、平成23年6月からダムの運用を行っている。

(2) 水源地域の現状

志津見ダムの水源地域である島根県飯南町は県都松江市から約70km南西に位置する。国道54号に平行する中国横断自動車道尾道松江線は、現在整備が進められており、平成24年度

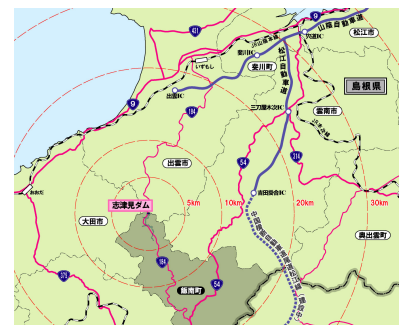


図-2 志津見ダム位置図

には三次 JCT まで開通する予定である。また、高齢化・過疎化の進んでいる地域である。

(3) 志津見ダムの周辺整備計画について

志津見ダムでは地域住民のワークショップ形式により、「将来の地域の状況に過度の期待をかけない、背伸びをしない計画」、「地域の資源を活かした地域住民が幸せになれる視点での観光と活性化」の2つの視点により平成14年3月に「志津見ダム湖周辺活用計画（以下、「活用計画」という）」が策定され、周辺整備を行った。

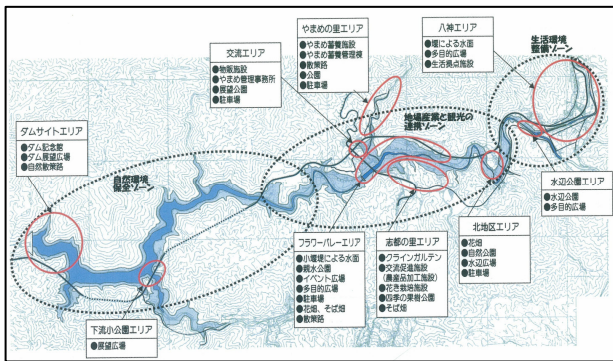


図-3 活用計画ゾーニング図

(4) ビジョン策定の背景

志津見ダムでは、活用計画に基づく周辺整備が完了したこと、活用計画策定から10年経過、平成23年6月から管理を開始したことを節目に、地域の活性化に寄与するための水源地域ビジョン策定を早急に行うこととした。

(5) ビジョン策定における課題と対応の概要

ビジョンの策定においては、水源地域の自治体や住民等が自立的、持続的に活動できるように、住民を含めた関係者の意向を十分反映したビジョンづくりを行うこと及び取り組み内容毎に実施内容や役割分担等を明確化し、推進体制を確立することが課題であると考えた。そのため実施を担う地域住民を含めた関係者が計画策定初期段階から参加し、十分に意向を反映したビジョンとすること、円滑な取り組みの実施のために実施内容や役割分担を明確化し、早急な推進体制の確立を行うことを念頭においた。

3. ビジョン策定における取り組みについて

(1) ビジョンの策定組織

ビジョンの策定に関しては、「志津見ダム水源地域ビジョン策定委員会（以下「策定委員会」という）」と具体的な検討を行う「志津見ダムの活用を語る会（以下「語る会」という）」を設置した。語る会のメンバーは、地域住民や地域活動団体及び関係行政機関が参加することにより、地域活性化のための取り組みや役割分担に

区分	所属等
地域住民	志津見地区
	角井地区
	八神地区
	獅子地区
地域活動団体	志々公民館
	志津見ダム対策同盟会
	志津見振興組合
	志津見ダム周辺活性化総合推進委員会
関係行政機関	地域おこし協力隊
	飯沼町・鳥視県・国土交通省

図-4 語る会の構成

ついて、関係者の意向が直接反映できる体制とすることができた。策定委員会は関係行政機関やダム周辺住民の代表が委員となり、語る会での検討内容をふまえ、承認や方向性を示す組織とした。

(2) ビジョン策定状況フロー

ビジョン策定にあたっては、平成23年12月より、策定委員会を3回、語る会を4回開催した。策定委員会では第1回で基本理念の審議を行い、その後検討状況の確認を行い、第3回で志津見ダム水源地域ビジョンを策定した。また、語る会においては委員会で示された基本理念に基づき、主に地域活性化へ向けた取り組み（アクションプラン）の検討を行った。また、語る会の開催前には関係行政機関からなる「準備会」を開催し、円滑に進行するための調整を行った。

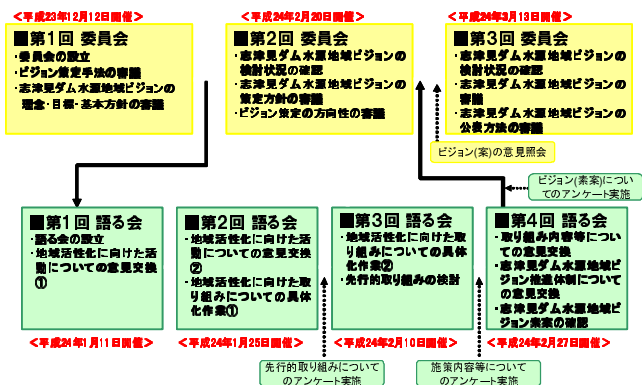


図-5 ビジョン策定の流れ

(3) 基本理念・地域の目標像・基本方針の審議

ビジョン策定着手においては、まず活用計画の基本理念の方向性や志津見ダム水源地域の現状及び、地域住民の利活用等に関する意向などを踏まえて志津見ダム水源地域ビジョンの理念・目標・基本方針を第1回策定委員会で定め、方向性を明確にした。

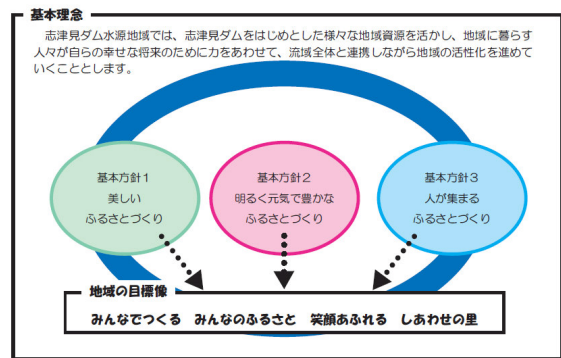


図-6 基本理念・地域の目標像・基本方針

(4) 関係者の意向等の反映方法

地域活性化に向けた取り組み（アクションプラン）の作成方法としては、地域の現状を事務局で分析しある程度作成された段階で、アンケートなどで意見を求める手

法が一般的と考えられる。今回は、実施主体となる地域住民の方々に語る会へ参加して頂き、計画作成の初期段階から直接、意見を聞くことで住民の意向の把握がスムーズにできた。

以下、語る会の進め方、検討内容及び検討状況について特に留意した事項を報告する。

a) 語る会の流れについて

語る会では、3つの基本方針に基づく具体的な地域活性化へ向けた取り組みをいきなり議論するのではなく、基本方針から連想される関係者の思いをイメージやキーワードとして抽出し、どのような取り組みをしたらイメージ・キーワードに近づくかを踏まえアイデアを出し合った。

次に、各アイデアについて、何ができるのか、誰が行うかなどを話し合い、取り組み内容を具体化した。さらにどの取り組みから実施していくのか優先順位を決め、志津見ダム水源地域ビジョン(素案)を作成し、策定委員会に提案した。

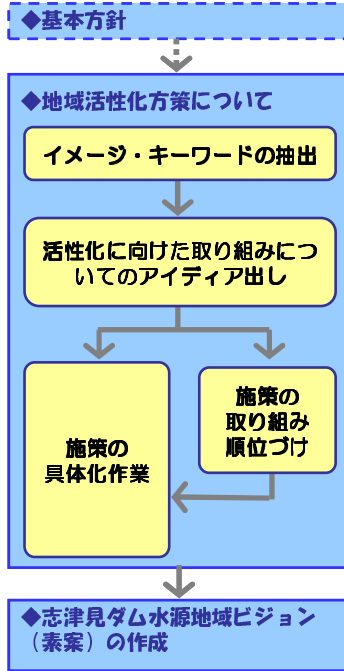


図-7 語る会の流れ

b) 第1回語る会の検討内容

第1回語る会では、2班に分かれ、3つの基本方針から連想されるイメージ・キーワード及び取り組みアイデアについて議論を行った。

取り組みアイデア出しは、しっかり議論したほうがよいとの結論に至り、次回も行うこととした。

人が集まるふさづくり
<イメージ・キーワード>

- ・大田市との連携
- ・温泉(昔出ていたらいい)
- ・トイレがある駐車場
- ・掃雪
- ・夜空
- ・楽しむ(子供が集まる案)
- ・「三瓶山」の活用
- ・名所
- ・桜並木(大田市)

人が集まるふさづくり
<取り組みアイデア>

- ・神戸川水系のイベント
- ・ホビー祭、コスモス祭
- ・フラワーレー野外コンサート
- ・七夕祭り
- ・LIVEイベント、夜間イベントとして出店も
- ・志津見ファンクラブ
- ・オロ子のオプジェ、オロ子の里作り
- ・遊覧船で楽しむ
- ・カーニバル
- ・魚釣り大会
- ・情報を必ずHP
- ・近隣の小さなイベントも含めたパンフレット作り
- ・フォトポイント、見所の紹介
- ・フォトコンテスト
- ・アウトレツモール
- ・スキーに行くと温泉に入れる
- ・金葉の薪火燃焼(三瓶山)
- ・貯水池に水を溜める
- ・地元、訪れた人たちに水源池を薦めてもらう
- ・玄關としてのイメージをつくる
- ・志津見ダムの水源地域を明示したい
- ・志津見ダムのエリアに入ったのだ...という印象をアピールしたい

図-8 取り組みアイデア(抜粋)

c) 第2回語る会の検討内容

提案された取り組みアイデアを、難易度順に「工夫次第で何とかできそう」、「がんばればなんとかできるかも」、「なかなか手強そう」に分類した上で、取り組み時期について「短期(1~3年)」、「中期(4~6年)」、「長期(7~10年)」の3区分に分類した。



図-9 語る会検討状況

これにより取り組みアイデアの優先順位を関係者において共通認識を持つことができた。



図-10 取り組み分類状況

d) 第3回語る会の検討内容

第2回で短期に分類された取り組みアイデアの中から、1年目の取り組み(先行アクションプラン)について、語る会のメンバーに事前にアンケート調査を行い、その結果を踏まえ、次年度直ちにに取り組む先行アクションプランの抽出と内容について意見交換を行った。これにより次年度からの取り組み内容がイメージできメンバーの活発な意見交換に繋がった。

e) 第4回語る会の検討内容

すべての取り組みアイデアを事務局で施策(アクションプラン)として整理し、取り組み内容(目的、場所、内容)について議論した。特に、先行アクションプランについては実施主体、実施項目と役割分担を踏み込んで議論し合い、最終的には図-11の整理表を作成し、関係者がいつ、誰が、何をやるのかわかり易いように取りまとめた。

先行アクションプラン					
取組内容	目的				
	時期				
期待できる効果	場所				
	内容				
アクションプランの実施に向け解決すべき事項					
実施主体					
実施項目と役割分担	実施項目				
	実施団体(住民、関係行政機関)				
	必要な支援内容				
	備考				

図-11 先行アクションプラン整理表

(5)ビジョンの情報発信

ビジョン策定においては、策定経過の積極的な情報発信が今後の円滑な推進に資すると考え、「志津見ダム水源地域ビジョンニュース」を策定委員会及び語る会の開催後毎に発行し、上下流の公民館、道の駅や関係行政機関への配布を行い、幅広い周知に努めた。また、出雲河川事務所HPで公開している「志津見ダム便り」にも開催概要を掲載すると共に、策定委員会の資料及び議事録をHPで公開した。

策定したビジョンは、一般の方にとって分かり易いように概要版を作成し、関係住民に全戸配布するとともに、HP、道の駅等の広報施設及びイベント等を通じて配布し幅広い広報に努めた。



図-12 情報発信について (例)

(6)ビジョンの策定について

語る会の提案を踏まえ、志津見ダム水源地域ビジョンを第3回策定委員会で策定した。

a) アクションプランの体系について

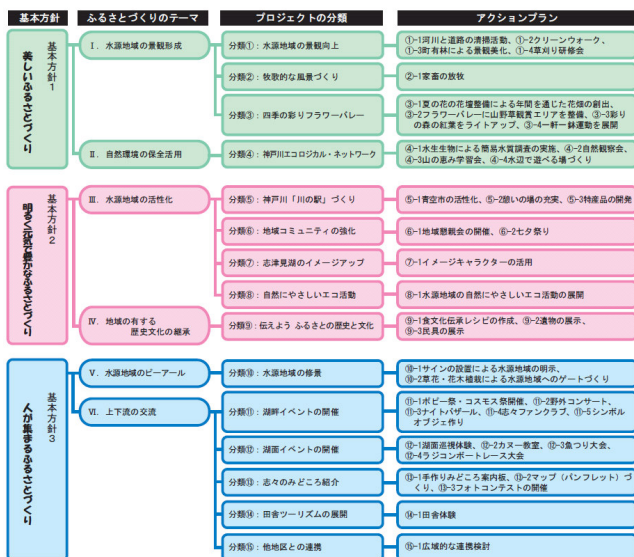


表-1 アクションプランの体系図

アクションプランは、3つの基本方針からイメージされるキーワードを踏まえ、取り組みアイデアを再編し、最終的に39のアクションプランとして整理した。

また39のアクションプランのうち、13のアクションプランについては先行アクションプランとして位置づけることとした。

b) 推進体制について

ビジョン策定後、速やかに推進体制を確立するため、方向性の提示、情報提供を行う「志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会（以下「推進委員会」という）」をビジョン策定と同時に平成24年3月13日に設置した。また、地元住民等から構成される「志々を元気にする会（以下「元気にする会」という）」を設立し活動の企画等を行う体制を構築した。

4.ビジョン策定について評価

策定委員会設立から年度末迄の約3ヶ月でビジョン策定が必要となったなか、4回語る会を開催し、さまざまな関係者の声を聞くと共に、アンケート調査の併用や、行政間での準備会を密に行うことで、アクションプラン、実施にあたっての役割分担、推進体制について関係者との合意形成がスムーズにできたと考える。

5.今年度のビジョン推進の取り組み状況

平成24年4月に第1回元気にする会を設立し、月1回程度意見交換を行っている。6月開催の既存のポピー祭においては今年度より、実行委員会に関係行政機関が参加し会場設営等の支援を行うと共に、ダム見学に加え、志津見ダム湖面巡視体験と志津見ダム水源地域ビジョンのPRブースを設けた。その結果、志津見ダム見学者は昨年度約70名であったのに対し、今年度は約250名の参加があった。8月には先行アクションプランである上下流の小学生が参加した水生生物調査を行った。



図-13 湖面巡視体験状況

6.今後の課題

ビジョンを自立的、持続的に推進するためには、フォローアップを定期的に行う仕組み作り、上下流交流などの水源地域外との連携、また安定的な活動資金の確保が必要であると考えられる。これらは、引き続きフォローアップを通じて検討・改善を行っていく予定である。

7.おわりに

志津見ダム水源地域ビジョンの策定は、地域の住民の皆様、関係行政機関の方々の多大なご協力、ご支援のおかげで策定できたものであり、紙面を借りて心より感謝申し上げます。

策定期間の短い中、1ヶ月に2回程度、語る会を実施すると共に、意見を取りまとめるためのアンケート調査を行い、地域住民の様々な方の声を反映した計画になったと考える。今回、住民と行政が共働して検討を行ったことは今後のビジョンの円滑な推進に繋がっていくものと確信している。

引き続き、関係者の皆様と一緒に取組み、本ビジョンが地域活性化の一助となれば幸いです。